

## 第5学年 総合的な学習の時間指導案

### 1. 単元名「よびもどそう！〇〇の自然」

### 2. こんな子どもだから

- 本学年の子どもたちは、ビルの建ち並ぶ〇〇の町に自然を呼び戻そうと、6年生から引き継いだビオトープの土壌の改良や生物調査に積極的に取り組み、自然への関心を高めている。全体の8割の児童が「総合的な学習の時間」を好きだと思っており、課題設定から追究活動、交流活動を行うことに自信をもって取り組む姿が見られる。【主体的、創造的な態度】
- 課題解決にあたっては、1学期、書籍やインターネット・インタビューから情報を収集したり、活動に必要なものを自分たちで揃え実践したりすることができた。しかし、地域の中の知識や技術をもっている人の存在に気付き、かかわれた児童は少数であった。また、つなぎの交流においては、互いのよさを見つけたり、そのよさを自分の取組に生かそうと考えたりすることができたが、不十分さから考えを深めたり広げたりして新しい課題を共有化するまでには至っていなかった。【問題解決にあたっての学び方】
- 校内では、高学年として委員会活動などを体験することで、生活をよりよくするための活動に意欲をもち、世話をしていく側の苦労にも気付き始めている。しかし、地域での活動に関しては、与えられた仕事に参加することはできるが、その活動に込められた地域の人々の思いに気付いたり感動したりすることはできていない。また、地域をよりよくするため、自分でできることをしようとするまでには至っていない。【自己の生き方への自覚】

### 3. こんな教材で

- ① **本質性**  
〇〇の町に失われた自然を呼び戻そうとつくられたビオトープを、人と人をつなぐ場所にするという単元を設定した。この学習を進めるにあたっては、長年この町に住み、町のために活動している人とかかわることが必要になってくる。町に愛着をもっている人の思いに触れることで、切実感をもった課題設定ができると考える。
- ② **課題性**  
ビオトープを魅力的な場所にするため、生き物を増やしてよさを広め、人々の集える場所にする活動を、様々な困難を乗り越えてやりとげたとき、自己の有能感を実感することができると思う。
- ③ **発展性**  
地域の人との協働活動を通して、自分と地域とのつながりを実感し、ビオトープが地域の人と人をつなぐ架け橋となったという有用感をもたせることができるであろう。その経験が、地域に参画しようという今後の行動につながる点からも、価値のある教材であると思う。

### 4. こんな支援で

- 「受ける」段階
  - 〇〇の町に長く住み、町のために活動をしている人で、ビオトープの創設にかかわった人と出会い、自然や町に対する思いを知ることから、ビオトープの価値について考え、課題1を設定できるようにする。
  - 地域の人と繰り返し、かかわりながら課題を解決していく体験活動を大切にすることで、その人の思いにふれ感動することができる。
  - つなぎの交流では、ビオトープを介して人と人をつなぐことができるという価値に気付かせることで、課題2を設定することができるようにする。
- 「返す」段階
  - ビオトープの価値を地域の人に実感してもらおう活動を実践することやこれからも継続した活動を行う計画を立てることで、「受けた」ことを「返す」という意識をもつことができるようにする。
  - 地域の人に活動を評価してもらおうことで、有用感・有能感を味わうことができるようにする。

### 5. こんな子どもに

- 自分の課題解決に向けて目的意識をもち、地域の人と進んでかかわったり、試行錯誤して困難な状況を乗り越えたりしながら、ビオトープをよりよくし、広める活動に最後まで取り組むことができる。【主体的・創造的な態度】
- 自分の課題に必要な資料の収集や地域の人とかかわりの中でつくりあげた自分の考えを、友達や地域の人と交流しながら、深めたり広げたりすることができる。【問題解決にあたっての学び方】
- ビオトープをよりよくしたことに対する有能感や、地域の交流の場として役立てたという有用感をもち、これからも地域の一員として、人と人をつなぐ活動を行っていこうという意欲をもつことができる。【自己の生き方への自覚】

6. 学習活動計画（計39時間）

段階	問題解決の学習過程	地域との双方向の関係づくりを成立させる支援	配時
受 け る	<p>1. オリエンテーションを行う。④</p> <p>(1) 昨年のビオトープ創設に携わった地域の人の話を聞く。</p> <p>(2) 地域の人々のビオトープに関する思い、〇〇の町に関する思いを調査する。</p> <p>(3) ビオトープの専門家から話を聞く。</p> <p>(4) これからのビオトープの在り方を考え学習の共通課題について話し合う。</p>	<p>※ GTから、〇〇の町にビオトープがあるよさや町に対する思いを聞くことで、これからの活動に意欲をもつことができるようにする。</p> <p>※ 専門家の話から「自然のあるよさ」を再認識し、活動に見通しをもつことができるようにする。</p> <p>※ ビオトープの価値を、自分たちにとっての価値から、〇〇の町にとっての価値に広げて考えることで、これからの課題を設定することができるようにする。</p>	1 1 1 1
	<p>課題1</p> <p><b>〇〇の町の人も見に来てくれるようなビオトープにしよう。</b></p>		
	<p>2. 自分の課題をつくり、調べる計画を立てる。②</p> <p>(1) 自分の課題を決める。</p> <p>○ 地域の人にとっても価値のあるビオトープにするための活動を考える。</p> <p>(2) 課題追究の見通しを立てる。</p> <p>○ これからの活動計画書を作成する。</p>	<p>※ 1学期の学習を振り返ることで、自分がビオトープに価値を見つけた経験を想起する。</p> <p>※ 活動計画書を作成することで、何を調べ、どんな活動をし、誰に学ぶかを明確にできるようにする。</p>	1 1
	<p>3. 自分の課題の解決に取り組む。⑩</p> <p>(1) 計画に基づき活動する。</p> <p>○ 地域の人と一緒につくる。</p> <p>○ 地域の人に広める。</p> <p>(2) 中間交流会をする。</p> <p>○ これまでの活動について、同質グループで情報交換を行う。</p> <p>(3) 付加・修正した計画書に従って、活動する。</p>	<p>※ 地域の人と繰り返しかかわることで、自然に関する知識を学んだり、生き方に触れたりする。</p> <p>※ TT体制で個々にかかわりやすくすることで、子ども一人一人に寄り添ったアドバイスができるようにする。</p> <p>※ 付加修正した点を中心に計画書を見直すことで、追究活動を広げ、深めることができるようにする。</p>	4 1 5
つ な ぎ の 交 流	<p>4. 活動報告会をする。⑤</p> <p>(1) 活動報告会の準備をする。</p> <p>(2) 活動報告会を行う。</p> <p>○ 活動の成果と課題をまとめる。</p> <p>○ 専門家の評価をもらい、自分の活動に価値付けをする。</p>	<p>※ これまでの活動のよさを見つけるという視点で聞き合ったり、GTから評価してもらったりすることで、有能感を高めることができるようにする。</p>	2 2 B組 本時 (4/5)
	<p>(3) これからの活動について話し合う。</p> <p>○ ビオトープのよさを、より多くの地域の人に伝える方法を考える。</p>	<p>※ ビオトープを介して人と人をつなぐことができたというよさに気付くことで有用感をもち、よさを広める今後の活動への意欲につなぐ。</p>	C組 本時 (5/5)
返 す	<p>5. 課題2の解決のための計画を立て、追究する。⑬</p> <p>(1) 新たな課題を決め、解決に向けての計画を立てる。</p> <p>(2) 自分の課題を追究する。</p> <p>(3) 中間交流会を行う。</p> <p>○ 考えたプランについて、異質グループで交流し、情報を交換する。</p> <p>(4) 付加修正をしてさらに追究する。</p>	<p>※ ビオトープは、自然と人・人と人をつなぐものであることを意識して計画を立てることで、新たな課題を設定することができるようにする。</p> <p>※ 自然と人・人と人をつなぐ視点を意識した交流をすることで、自分のプランのよさや不十分さに気付くことができるようにする。</p>	1 4 A組 本時 (6/13) 7
	<p>6. プランを実践する。③</p> <p>○ 地域の人や保護者に、これまでの活動の成果とこれからの活動の計画を伝える。</p>	<p>※ 地域の人や保護者に、活動を評価してもらおうことで、有用感・有能感を味わうことができるようにする。</p>	3
	<p>7. 活動全体を振り返り、互いのよさや成長を自覚し、これからの自己の生き方について話し合う。②</p>	<p>※ 振り返りの活動を通して、今後も自分のプランを実践していくことや、地域の人とのかかわりを大切にすることに意欲をもつようにする。</p>	2

## 8. 本時の目標

- ビオトープのよさを広めることへの見方・考え方を高め、新たな課題を見いだすことができる。  
【自己の生き方への自覚】

## 9. 本時指導の考え方

子どもたちは、「受ける」段階において、地域の人や専門家と繰り返しかわりながら、ビオトープを地域の人にも大切にされる場所にしようと、生き物の種類を増やすためのすみかづくりや訪れた人が歩く道づくりなど足りない物をつくる作業をしたり、活動の様子や今いる生き物を知らせる新聞を作ったりしてきた。それらの活動の振り返りの中で、自己の成長を実感することができた。

本時は、「返す」段階に向け、ビオトープの価値を再認識し、この活動をさらに広めるための課題意識と意欲をもたせることをねらいとする「つなぎの交流」の場面である。

そこで、まず、これまでの活動の振り返りの中で出てきた、今後必要となる活動についての話し合いを進めさせる。その中で、何を伝えていくのかを明らかにすることで、ビオトープの「自然と人とをつなぐよさ」を広めようとしていることを確かめる。

次に、一緒に活動にかかわってくれていた地域の人が、実は自分たちとの交流を大変楽しんでくれていたこと、また、これまでの活動が「人と人との温かい触れ合いのある〇〇の町にしたい」という地域の人への思いの一助となっていたことを知ることで、これまでの活動の中に「人と人とをつなぐよさ」を見いだすことができるようにする。自分たちの活動が地域の人への思いの役に立っていたという有用感を感じることで、ビオトープのよさを広めることへの見方・考え方が高められ、自然と人、そして人と人とをつなぐことを意識した「返す」段階への課題意識をもつことができると考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の4点である。

- ① 前時までの学習を整理した掲示物や自己評価カードを見て振り返ることで、これまでの活動の中で地域の人とのつながりを思い起こすことができるようにする。
- ② これから取り組もうとする活動のよさを明らかにしながら話し合い活動をさせることにより、伝えたいビオトープのよさを共有化させる。
- ③ これまでの活動に「人と人とをつなぐよさ」という視点をもつことができる地域の人のお話を聞くことで、これまでの活動の価値付けを行い、今後の活動に対する意欲と自信をもてるようにする。  
(T1は、これまでの活動の中に「人と人とをつなぐよさ」を具体的に見だし友達に考えを伝えていく児童に対し賞賛の声かけを行い、全体の中で取り上げていく。T2は、なかなか思い起こしのできない児童に掲示物や自己評価カードを示して、これまでの地域の人とのかかわりを思い出すよう助言する。)
- ④ 地域の人と交流しながら、学校外での活動をしている他校の写真を提示することで、ビオトープから地域へと活動の場所を広げることでもできると気付かせ、次の活動への見通しをもてるようにする。

## 10. 準備

(教師) 前時までの学習を整理した掲示物、地域の人への声 (VTR)、他校の実践の写真

(子ども) 学習ファイル、自己評価カード

## 11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 課題1で学んだことを振り返り、本時学習のめあてを知る。</p> <p>(1) 活動報告会を振り返り、感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ すみかづくりによる生き物の増加への喜び</li> <li>○ よさを伝える内容を工夫した新聞づくりの充実感</li> <li>○ 散策道づくりでビオトープの開放ができた達成感。</li> </ul> <p>(2) 活動報告会で出てきた課題について話し合うことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 訪れる人が少ない。</li> <li>○ ビオトープのよさが一部にしか伝わっていない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時のめあて これからどんな活動を行えばよいか話し合おう。</p> </div> <p>2. これからの活動について話し合う。</p> <p>(1) どんな活動をし、どんなよさを伝えていくのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの開催</li> <li>・新聞の発行部数増と内容の向上</li> <li>・案内板の定期的な更新</li> <li>・協働活動による整備</li> </ul> </li> <li>○ 伝えたいよさ <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と触れ合う楽しさ</li> <li>・生き物を発見する喜び</li> <li>・季節の変化への気付き</li> <li>・自然を呼び戻す喜び</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">「自然と人をつなぐよさ」</p> <p>(2) 地域の人のお話を聞いて思ったことを話し合い、課題2を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまでの活動が、自分たちと地域の人との結びつきを強くしていた。<small>(新たな気付きと喜び)</small></li> <li>○ 自分たちの活動が、地域の人々の「人と人との温かいふれあいのある町」を目指す思いの一助となった。<small>(有用感の実感)</small></li> <li>○ 今後も人と人をつなぐために役立ちたい。<small>(新たな決意)</small></li> </ul> <p style="text-align: center;">「人と人をつなぐよさ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題2 ○○の町の人に、ビオトープのよさを もっと広めよう。</p> </div> <p>(3) 具体的な活動の見通しを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人と人をつなぐ視点で価値付ける。</li> <li>○ 資料によるよさの伝え方の多様性を知る。</li> </ul> <p>3. 自己評価カードを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝えたいよさに気付くことができたか。</li> <li>○ これからの活動に意欲と自信をもつことができたか。</li> </ul> <p>4. 教師のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 子どもの学習への価値付け・賞賛</li> <li>○ 次時の学習の確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今日の学習では、ビオトープの活動が地域の方の思いと重なっていることに気が付きましたね。(賞賛) さらに人と人をつなぐ活動を行うことで、ビオトープのよさが広まっていきそうですね。(価値付け) 次の時間は、これからどんな活動を行い、どんなよさを広めていくのか、自分の課題を決めましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p>【観点】 自己の生き方への 自覚</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ビオトープを介して人と人をつなぐことができるという新しい価値をこれまでの活動の中での気付きと結びつけ、新たな課題を意識することができる。</li> </ul> <p>【評価方法】 表情・発言 自己評価カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ GTのお話を聞くことで、「自然と人をつなぐよさ」に加え「人と人をつなぐよさ」という視点に気付くようにする。</li> <li>○ 前時までの学習を整理した掲示物や自己評価カードを見て、これまでの活動に新たな価値付けをすることで、課題への意識を高めることができるようにする。 (TT体制により、個に応じた声かけを行うことで、一人一人が新しい価値を実感できるようにする。)</li> </ul>

## 8. 本時の目標

- 地域の人にビオトープのよさを広めるためのプランを発表し合い、自分の考えのよさを主張したり、自分の考えと比べながら聞いたりすることができる。【問題解決にあたっての学び方】

## 9. 本時指導の考え方

本時は、「○○の町の人に、ビオトープのよさをもっと広めよう」という課題のもとに、「自然と人」「人と人」のかかわりを増やすという新たな視点を入れながら考えた自分のプランを発表し、よりよいものにしていく中間交流の場面である。

ここでは、自分のプランを分かりやすく発表したり、自分と比べて聞いたりする活動を通して、よりよいプランにしていくことをねらっている。また、プランのよさを認めてもらったり、不十分な点を付加修正してよりよいものにできたりしたことに満足感をもち、実行に向けての意欲を高めることもねらっている。

そこで、本時ではまず、3～4人のプランの異なる友達で構成したグループを作って、話す・聞く機会を十分に与え、相手意識をもって話したり、発表者の意図まで受け取って聞いたりすることができる場とする。また、自分の考えがより伝わるような発表方法を準備させ、発表する側と聞く側の両方に、「人と人をつなぐよさ」「自然と人をつなぐよさ」がプランに入れられているかどうかを視点としてもたせておく。そこにおいて、視点をより具体的に「いっしょに活動できるか」「自然を楽しむことができるか」と子どもにとって分かりやすくした言葉にして、交流がより活発にできるようにする。そして、活動のよさ、指摘されて役に立ったことを聞く側の視点で出し合うことで、より明確にプラン実行への見通しと意欲をもつことができると考える。

そこで、本時学習の指導における目標達成のための主な支援は、以下の2点である。

- ① 発表及び聞く視点を「人と人をつないでいるか（いっしょに活動できるか）」「自然と人をつないでいるか（自然を楽しむことができるか）」に設定し、掲示することで目的を意識した交流ができるようにする。
- ② 3～4人の、プランの異なる友達で構成したグループをつくることによって、話す・聞く機会を十分に確保するとともに、関心をもって聞くことができるようにする。

## 10. 準備

(教師) 発表・聞くときの視点を書いた掲示物、前時までの学習を整理した掲示物

(子ども) 発表に使う表現物、自己評価カード、学習ファイル



## 8. 本時の目標

- 今まで行ってきた活動を意欲的に発表したり，友達の活動のよさを見つけたりすることができる。  
【問題解決にあたっての学び方】

## 9. 本時指導の考え方

本時は，今まで自分たちがしてきた活動を取組の異なる友達で構成したグループの中で発表したり，他のグループの報告を聞いて意見を交流したりする「活動報告会」の場面である。これまでに子どもたちは，ビオトープにもっと生き物を呼び寄せるために，植物が生える土をつくるなど，生き物が住みやすいような環境を工夫をしてつくってきている。また，ビオトープにもっとたくさんの人が足を運んでくれるように，道づくりや看板づくりなどの活動をしている。しかし，自分以外のグループがどのような活動をどのような思いでしているかまでは詳しく分かっていない。

そこで，本時では，今まで自分たちが取り組んできた活動を他の友達に分かりやすく伝え，友達の活動のよさを評価する聞き合い活動を行うことにより，これまでの活動をやり遂げたという有能感をもたせ，これからもビオトープにかかわってほしいという意欲を高めることができると思う。

そこで，本時学習の指導における目標達成のための主な支援は，以下の3点である。

- ① 取組の異なる友達で構成したグループをつくり，お互いの取組を聞き合うことで，自分以外のグループがどんなことをしているか興味深く聞くことができるようにする。
- ② 聞く視点（友達の取組にはどんなよさがあるか・地域の人が見に来てくれるようなビオトープになっているか）をはっきりさせることで，これまでの自分の活動を振り返り，友達の活動に適切な評価ができるようにする。
- ③ 発表した後に，子どもの課題解決にかかわっていただいたG Tから，子どもの学びを評価していただくことで有能感を高めることができるようにする。

## 10. 準備

（教師）前時までの学習を整理した掲示物，専門家（〇〇さん）からのビデオテープ

（子ども）発表に使用する表現物，自己評価カード，学習ファイル

## 11. 展開

学習活動と内容	評価規準	支援
<p>1. 本時学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時のめあて 自分の活動をふり返り、友達の活動のよさを見つけよう。</p> </div> <p>2. 「活動報告会」を行う。            (1) 聞く視点を確認する。            ----- 《聞く視点》 -----            ① 友達の活動のよいところはどこか。            ② みんなが来てくれるようなビオトープになってきたか。</p> <p>(2) 友達の報告を聞き合う。  <input type="checkbox"/> 植物グループ                植物がたくさん生えるような土づくり  <input type="checkbox"/> 池グループ                池の温度を調べ・水の調整  <input type="checkbox"/> 道グループ                ビオトープを見て回れるような道づくり  <input type="checkbox"/> すみかグループ                生き物を呼び寄せるしかけづくり  <input type="checkbox"/> 看板グループ                ビオトープのルールや情報を知らせる看板づくり  <input type="checkbox"/> 宣伝グループ                〇〇の町の人たちにビオトープのよさを知ってもら                うための新聞づくり</p> <p>3. 報告会を振り返り、感想を発表する。            (1) 報告会を振り返り、友達の活動のよさをカードに書く。            (2) 友達の取組のよかったことを発表する。</p> <p>4. GTの話聞く。            (1) 課題解決にかかわっていただいた さんの話を聞く。            (2) 自己評価カードを書く。  <input type="checkbox"/> 友達の活動のよさをみつけることができたか。  <input type="checkbox"/> 今までの自分の活動のよさに気付いたか。</p> <p>5. 教師の話聞く。  <input type="checkbox"/> 子どもの学習への価値付け・賞賛  <input type="checkbox"/> 次時の学習の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〇〇さんも言われていたように、〇〇の人たちにたくさん来てもらえるようなビオトープをめざして、今までよくがんばりましたね。(賞賛) それぞれのグループの活動のよさもみつけることができましたね。(価値付け)            でも、もちろんまだこのビオトープの活動は、これで完成というわけではありません。次の時間は、これからどんなことをしていったらいいのか、また、みんなで考えていきましょう。(次時の学習の確認)</p> </div>	<p><b>【観点】</b> 問題解決にあたっての学び方</p> <p><b>【評価規準】</b>  <input type="checkbox"/> 自分の活動のよさや地域の人とのかかわりについて話したり、友達の活動のよさを考えながら聞いたりすることができる。</p> <p><b>【評価方法】</b> 表情・発言 自己評価カード</p>	<p><input type="checkbox"/> 自分の活動を振り返りながら、聞く視点ははっきりさせ、これまでの、友達の活動に適切な評価ができるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/> GTから、今まで自分たちがやってきた活動を評価していただくことで有能感を実感することができるようにする。</p>